

## 気候情報

### 2013年9月の日本の天候

- 北・東日本と沖縄・奄美は高温
- 東日本日本海側と西日本は多雨・多照
- 台風第18号で広範囲に大雨
- 沖縄・奄美の一部では少雨が継続

#### 9月の天気概況

月を通じて日本の南海上の亜熱帯高気圧が平年より強く、また偏西風も平年より北を流れたため、西日本を除いて月平均気温が高く、特に沖縄・奄美ではかなり高かった。また、上旬には秋雨前線と台風第17号、中旬半ばには台風第18号の影響を受けて広範囲で大雨となったため、東日本太平洋側と沖縄・奄美を除いて月降水量が多く、特に東日本日本海側ではかなり多かった。沖縄・奄美では、湿った気流の影響で雨の降る日はあったものの、高気圧に覆われて晴れる日が多かったため、月降水量は少なく、一部の地域では7月以降の少雨の状態が継続した。一方、中旬以降は移動性高気圧に覆われて晴れる日が多かったことから、北日本を除いて月間日照時間が多く、特に東日本と西日本ではかなり多かった。

**上旬：**秋雨前線が本州付近に停滞し、沖縄・奄美を除いて全国的に曇りや雨の日が多かった。日本の南東海上で勢力を強めた太平洋高気圧の縁をまわって湿った気流が流れ込んだほか、4日には九州に上陸した台風第17号の影響も加わり、1～4日は、西日本の各地で大雨となった。また、2日に埼玉県で、4日には栃木県で竜巻が発生した。なお、この降水により四国地方の少雨の状態は一気に解消した。一方、秋雨前線の北側には寒気も流れ込んだため、西日本では気温の低い日が多かった。関東甲信地方では、1～3日に前線の南側で晴れて厳しい残暑となった。沖縄・奄美では、1～3日に台風第17号の影響で雨が降ったが、その後は高気圧に覆われて晴れの日が続いた。

**中旬：**11～14日に弱い気圧の谷の影響で雲の広がった所はあったものの、高気圧に覆われて概ね全国的に晴れとなった。15～16日は、東海地方に上陸して三陸沖に抜けた台風第18号とその北側に停滞していた秋雨前線の影響を受け、北日本から西日本にかけての広い範囲で大雨となり、福井県、滋賀県、京都府では大雨特別警報が発表された。また、この台風に伴って、和歌山県から北海道に至る7都道府県で竜巻等の突風が計12個発生した。なお、この降水によって、東日本太平洋側の一部で続いていた少雨の状態は解消した。17～20日は、再び移動性高気圧に広く覆われて全国的に晴れの日が続いた。また、この移動性高気圧は乾いた空気を伴っていたことから、東・西日本では、最低気温が平年を下回る一方、最高気温は平年を上回り、気温の日較差が大きかった。沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて、概ね晴れて気温の高い日が続い

た。

**下旬：**東・西日本では、移動性高気圧に覆われて晴れた所が多かった。一方、南からの湿った気流の影響で太平洋側では雨の降った所もあった。特に関東地方では台風第20号が南海上を北東進した影響で、24～26日は、曇りや雨となった。北海道では、24～25日に前線の活動が活発となり、まとまった雨となった。沖縄・奄美では、21日に台風第19号の外側の雲域がかかったため、曇りや雨となったが、その後は高気圧に覆われて晴れの日が続いた。

#### 9月の気候統計

**月平均気温：**沖縄・奄美ではかなり高く、北・東日本で高かった。西日本は平年並だった。

**月降水量：**東日本日本海側ではかなり多く、北・西日本で多かった。一方、沖縄・奄美では少なかった。東日本太平洋側は平年並だった。

**月間日照時間：**東・西日本ではかなり多く、沖縄・奄美で多かった。北日本は平年並だった。

(気象庁観測部情報管理室)

#### 9月の記録（1位更新のみ）

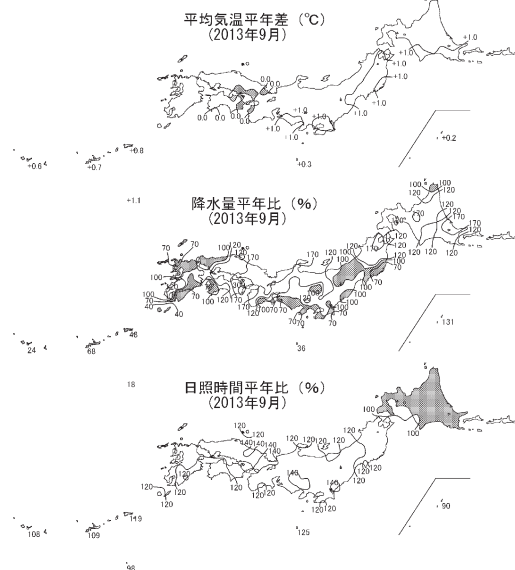
##### ・月降水量の少ない方から（mm）

沖永良部 24.0

##### ・月間日照時間の多い方から（時間）

水戸 185.0 甲府 204.5 鳥取 196.2 姫路 211.5 など8地点

#### 2013年9月の平年差（比）図



注) 陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す。